

しかし、調停者の知識と技能は、紛争転換の仲介をするためだけのものではありません。自分自身が紛争に巻き込まれたり、当事者になったりしたときにも役立つ方法なのです。人間は自分自身と対話することができる動物です。また、対立する相手方の目標を理解し、共感することも、訓練によって上達するでしょう。

**コラム**

**ペルーとエクアドル問題**

20世紀中、エクアドルとペルーの間に3度の戦争を引き起こした500平方キロの地帯における国境をめぐる紛争(対立)に関して、全く境界線を引かずに、その地域を『「自然公園という2国間ゾーン」に変えることによって解決しよう』という提案は、最初、まったく相手にされませんでした。「創造的すぎる(考えだ)」というのです。「国境線というものは、当然引かねばならないものだ」という考えに固執し、54年間にわたり、数限りない交渉を繰り返しながら、延期と撤退が重ねられ、ついには軍事的手段が試みられました。領土を分割し、新しい国境線を引くことも提案されましたが、結局うまくいきませんでした。

ところが「創造的すぎる」提案がなされた3年後の1998年の秋、突然エクアドルは「自然公園を備えた2国間ゾーン」を提案し、これがエクアドルとペルー間の平和条約の内容となったのです。たった3年で実現することになった「創造的すぎる提案」。21世紀の今も、その「転換された」空間は地域の人々の交流の場、経済の場として発展し続けています。

**参考文献:**

**手軽に理解できる窓口:**

\*トランセンド(平和的手段による紛争の転換)研究会ホームページ

<http://www.transcendjapan.org/>

\*『ガルトゥング平和学入門』

ヨハン・ガルトゥング+藤田明史他、法律文化社、2003年(とくに、第2章「トランセンド法入門」)

**もう少し深く知りたい人に:**

\*『あの人と和解する一仲直りの心理学』

井上孝代、集英社、2005年

\*『平和を創る発想術:紛争から和解へ』

京都YMCAほーぽのぼの会、岩波書店(岩波ブックレットNo.603)

\*『ガルトゥングの平和理論-グローバル化と平和創造』

ヨハン・ガルトゥング著、法律文化社、2006年

\*『平和的手段による紛争の転換』

ガルトゥング、平和文化(国連紛争解決マニュアル本)

\*『トランセンド研究-平和的手段による紛争の転換』

(トランセンド研究会により編集・発行)

学校でいじめが起こったら、どのような関係が生まれてくるでしょう。  
関係者や関係性を記入してみてください。

